

筑後市社会福祉協議会 / 広報

# 人として

筑後市社会福祉協議会

(〒833-0032 筑後市野町680-1)

TEL 52-3969

FAX 53-6677

Mail info@chikugo-shakyo.or.jp

URL http://www.chikugo-shakyo.or.jp

私たちの手で 私たちのまちを 福祉のまちに…それが社会福祉協議会の目標です

## 筑後北校区福祉会 福祉活動実践者座談会



福岡地区でひきこもり支援活動を実施するNiente山川代表



## 地域の理解が 本人や家族の 安心に繋がっていく

6月28日(土)、筑後北校区福祉会が福祉活動実践者座談会を開催しました。Niente山川代表によるひきこもりについての講演の後、グループに分かれての情報交換も行われました。

ひきこもりになった理由は一つではない

36〜41歳の5年間、ひきこもり状態でした。その理由は一つではありません。学生時代のいじめ、職場の人間関係、家族の介護問題、うつ病の発症などが相まって、ひきこもり状態になりました。

最初は自分を「ひきこもり」とは思わず、少し休んでいるだけだと思っていました。でも、休んでいるうちに、宅配便の受け取りができなほど人が怖くなりました。なんて自分は情けない人間なんだと自暴自棄になり、風呂も入らず、歯も磨かない。家族を避けるために昼夜逆転の生活になっていきました。ゲームをしていたのは、その時間だけは死にたい気持ちが和らいだけでした。

「おかしな人」として扱われたくなかった

当時、私が嫌だった言葉がありました。「でもね」「普通は」「みんなは」です。

「でもね」は否定されている感じ

に、「普通は」はあなたはおかしい人だと言われる感じに、「みんなは」は個性の否定に感じていました。しかし、それも感じ方は人によって様々で平気な人もいますはずです。私の場合は、専門家や医師の支援を受けたくありませんでした。「おかしな人」として扱われるような気がしたからです。

救ってくれたのは町の自然なおせっかい

誰にも相談したくないし、いきなり仕事に就くのはハードルが高い。ボランティアならできるかなと思いついた。周りはお年寄りばかりでしたが、「重い荷物を運んでもらえて助かった!」「若いメンバーが入って良かった!」と、心からの「ありがとう」をもらえました。

過剰な褒め言葉ではなく、一人の人として自然な会話をしてくれました。このことがきっかけで造園の仕事を始めることになりました。地域のおっちゃん・おばちゃんのおせっかいに救われました。

ひきこもりは

自分らしい生き方にシフトする

“チャンス”だった

今は毎日が楽しいです。ひきこもりを経験していなければ今の人生はありません。「仕事がつらい」と思い続ける毎日だったはず。ひきこもりは自分らしい生き方にシフトする“チャンス”でした。そしてそれを教えてくれたのが地域の人たちでした。

どう動かすかより

本人が何を感じているのか

「どうしたら、本人を動かすことができますか?」とご家族から質問を受けることがあります。でも、どう動かすかの前に、本人が何を感じているのかを知ろうとすることが大事です。人生は本人のものなのに、周りばかりが動くと、本人を傷つけかねません。

日本の福祉制度は充実しています。まず大事なのは、本人に情報を届けることです。

人や家族は、より相談しにくくなります。逆に家庭の問題ではなく地域の課題だと捉えてもらえたら、相談しやすくなります。

まずはみんなで関心をもち、本人も家族も安心できることが大事なのではないでしょうか。

ひきこもり家族相談会

とき／ 8月21日(木) 13時～16時  
ところ／ 筑後市総合福祉センター  
(野町680-1)

要予約／ 8月14日(木) 17時まで

連絡先／ 筑後市社会福祉協議会  
(52-3969)

不登校・ひきこもりの方の家族会

サルビアの会

とき／ 8月2日(土)  
14時～15時半

内容／ おしゃべり会

ところ／ 筑後市総合福祉センター  
(野町680-1)

対象者／ 不登校やひきこもりの方の家族

連絡先／ 筑後市社会福祉協議会  
(52-3969)

情報を“声で”、“点字で”伝えるボランティア

点訳ボランティア むつみ会  
ボランティア養成講座



むつみ会は、1982年に活動を開始した点訳のボランティアグループです。視覚障害のある方のために、広報誌や書籍の点字変換(点訳)をしたり、小学生の福祉教育に参加し、点字を紹介するなどの活動をしています。

5月26日よりボランティア養成講座(毎週月曜、5回シリーズ)を開催しました。

音訳ボランティア みずぐるま  
～佐賀県武雄市視察研修～



みずぐるまは、1980年に活動を開始した音訳・朗読の会です。視覚障害で広報誌が読めない方や、手指が不自由でページをめくれない方などへ、紙面の内容をCDに録音(音訳)して届けています。

6月19日(木)、佐賀県武雄市へ視察へ行き、地元の音訳ボランティア団体「エポカル武雄フレンズ」さんと情報交換を行いました。

両団体が発行する声の広報誌、点字の広報誌は無料で利用できます。  
お気軽にお問い合わせください。

## JAふくおか八女 お米200kgのご寄付



JAふくおか八女様より筑後市・八女市の社協にお米をご寄付頂きました。子ども・地域食堂などに活用させていただきます。

## NPO法人いるか 食料品のご寄付



NPO法人いるか様より食料品をご寄付頂きました。食を通じた支援などに活用させていただきます。

## ひとり親家庭の子のための 学習支援 —ボランティアを募集しています—



母子寡婦福祉会では、「ひとり親家庭の小・中学生のための学習支援教室」を手伝ってくれるボランティアを募集しています。

子どもたちとのコミュニケーションを大切にしながら実施中！お気軽にお問い合わせください(利用希望者も募集しています)

- とき** 毎週火曜日19:00~21:00
- ところ** 筑後市総合福祉センター
- 内容** 授業の補習などの学習支援、見守り
- その他** 交通費あり、ボランティア保険加入資格・経験不問/月1回から可
- 問合せ** 筑後市社会福祉協議会 TEL 52-3969

## 赤い羽根共同募金 UMOUプロジェクト



### いらなくなった 羽毛ふとん、 ダウンジャケットを 寄付しよう！

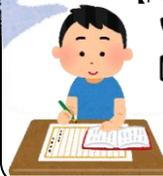
### UMOUプロジェクトのルール



- 回収日** 月～金曜日 (祝祭日・年末年始を除く)
- 回収時間** 9:00~17:00
- 回収場所** 筑後市総合福祉センター(野町680-1) (引き取り回収は行なっていません)
- 問合せ** 筑後市社会福祉協議会 ☎ 52-3969

## 福祉センター 夏休みもご利用ください！

- 【開館日】** 月～金曜日(祝祭日を除く) 8:30~17:00
- 【住所】** 筑後市野町680-1
- 【問合せ】** 筑後市社会福祉協議会  
☎ 52-3969 ☎ 53-6677  
✉ info@chikugo-shakyo.or.jp



学習スペースとして…  
居場所として…

障害のある人の兄弟姉妹の会です

## ふくおか・筑後きょうだい会

～同じ立場で語り、交流しましょう～

- とき** 8月16日(土) 15:00~17:00
- ところ** 筑後市総合福祉センター(野町680-1)
- 問合せ** ●ふくおか・筑後きょうだい会  
✉ chikugo\_kyoudai@yahoo.co.jp  
●筑後市社会福祉協議会  
☎ 52-3969 ☎ 53-6677



## 社会福祉事業資金寄付

### ★ 香典返し寄付の部 ★

田中賢一様 (故 イマエ様) 上北島  
 栗原 磨子様 (故 渡様) 和泉中  
 齊藤 せい子様 (故 稚一郎様) 和泉東  
 大島 美智子様 (故 齋様) 羽犬塚  
 井上 澄枝様 (故 博邦様) 蔵数  
 下川 茂博様 (故 光善様) 馬間田南  
 尋木 智子様 (故 俊博様) 尾島

### ★ 一般寄付の部 ★

○筑後市子様(蔵数)から現金の寄付がありました。

社会福祉事業資金寄付  
 ★ 計五〇〇,〇〇〇円

## 善意奉仕銀行寄付

### ● 預託の部 (物品口座)

○匿名様から食品・日用品の寄付がありました。  
 ○匿名様3件からお米の寄付がありました。  
 ○篠原弘様(一条)から野菜の寄付がありました。  
 ○野田製菓様(八女市)から黒棒の寄付がありました。

## 『食料品の無料配布』でひとり親家庭を応援!



食品・日用品等を配布します。必要な方は、お気軽にお越しください。なお数に限りがありますので先着順とします。

**配布日** 8月19日(火) 17:30~19:00

**対象** 平成15年4月2日以降生まれの子がいるひとり親家庭

**配布場所** 筑後市総合福祉センター

**問合せ** 筑後市社会福祉協議会 ☎ 52-3969  
 info@chikugo-shakyo.or.jp

### ★事前予約は必要ありません

- 当日直接お越しください。
- 取り置きへの対応はいたしません。
- ご家族以外の方の代理受取はできません。

★グリーンフードパントリー(野菜の無料配布)も実施中!

※詳細は、公式LINEにて⇒⇒



### 筑後市社会福祉協議会 公式LINE

さまざまな情報をお届け！友達追加はこちらから



【いずれも6月1日〜6月30日まで】

○立山康弘様(和泉中)から野菜の寄付がありました。  
 ○NPO法人いるか様(福岡市)から食品の寄付がありました。  
 ○JAふくおか八女様(八女市)からお米の寄付がありました。  
 ○JAふくおか八女やらん野菜(前津)から野菜の寄付がありました。  
 ○(株)プレシア様(下北島)からお菓子の寄付がありました。

## 余っている食品を



## 必要な家庭へ



食べる予定のない、お米・インスタント食品・レトルト・缶詰・乾麺などがあればご寄付ください。

★賞味期限が概ね3か月以上ある物に限ります

**受付場所** 筑後市総合福祉センター、ファミリーマート筑後長浜店 寄付受付BOX

**問合せ** 筑後市社会福祉協議会 ☎ 52-3969

ファミマでもフードドライブされています!

## 事務局通信

我が家の小学生の子どもたちは、些細なことでも喧嘩をします。仲裁に入るとき、「○○が悪いでしょ!」と口走ってしまったのですが、先日、災害ボランティア活動に永く取り組まれている方の話を聞く機会がありました。「災害ボランティアセンターでは、意見の相違が起きることがしばしばある。でも、どちらが正しい?ではなく、どちらも正しいのだ。それぞれに理由があるのだから、大事なのは双方が納得できる落としどころを見つけるために、対話することなんだ」と熱弁されました。

冒頭の自分の姿を思い起こし恥ずかしくなったと同時に、本号で紹介した山川さんの「まず本人が何を感じているのかを知ってほしい」という言葉とリンクしました。

理由も聞かずに自分の意見を一方的に伝えると、相手を傷つけるかもしれません。主張の裏側には必ず理由があります。その発言、態度の背景に目を向けて、対話を重ねることが大切なのだと思いました。(明)